

「江内中学校の山田樂伝承活動の取組」

1 学校名

出水市立江内中学校

2 学年・人数

2年生（計14人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年5月～9月 江内中学校体育館・校庭

(2) 発表の日時・場所

令和4年9月25日（日） 江内小・中学校合同運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

江内山田樂（えうちやまだがく）

(2) 由来

山田樂は、約350年前、出水郷地頭の山田昌巖が武士の士気を鼓舞するために作った踊りとされている。出水地区の4校区で伝統芸能として継承されている。江内山田樂は、30年ほど前まで青年団が踊っていたが、青年団の衰退とともに山田樂の伝承活動も途絶えた。1995（平成7）年、江内中学校創立50周年に合わせて復活させ伝承する目的で、江内山田樂保存会が結成された。

(3) 構成等

構成は、鐘・柴（鼓太鼓）・宮（大太鼓）の3つからなる。鐘の先頭の親鐘が要所で合図を送る。親鐘を先頭に柴と宮の太鼓が続いて、練り歩き入場する。その後、3列になり、正面を向き、整列する。鐘を内円とし、柴と宮で外円をつくり、二重の円を作り、演舞する。最後、再び3列になり、正面を向き整列、一礼した後、そのまま退場する。1～6番からなる構成により、出征から凱旋の形を太鼓踊りに組んでいる。

5 保存会や地域との連携の具体

例年、江内小学校5年生と江内中学校2年生が江内山田樂保存会の方から指導を受けて、小中合同運動会、紫尾神社奉納祭（小学5年生）、江内祭り（中学2年生）で踊りを披露している。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、紫尾神社奉納祭と江内まつりでの披露は中止された。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校は、総合的な学習の時間の中に「ふるさと江内学」を設定し、そのうち2年生は年間計画の中に山田樂の練習・まとめを計6時間位置付けている。

中学2年生は、小学生の時の経験を生かし、練習内容を工夫したり小学5年生にアドバイスをしたりしている。

7 取組の様子



小中合同の練習風景（5月）



小中合同運動会での発表（9月）

8 参加生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【2年生】

保存会の方の講話や説明をきいて、1回の練習の大切さや相手のことを思いやることの大切さを学んだ。中学2年生と小学5年生で学年は違ったが、積極的にコミュニケーションをとれてよかった。

【教職員】

生徒は山田樂をとおして、ふるさとを大切にすることの大切さを実感していた。山田樂保存会や保護者との交流を深め、地域の伝統を守る活動の大切さや意義を実感した。また、中学生が小学生に教えることで、異学年でのつながりを意識して練習に取り組んでいた。

【保存会から】

学校と密に連携しながら、児童生徒の演舞を支援し、安定した継承活動が行えている。運動会での演舞により、地域の方に活力を与えると共に、子供たちの郷土愛の醸成に寄与している。保存会の会員も、児童生徒との交流を通して、やりがいと自己有用感を得ることができている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、演舞の機会が少なくなっている。児童生徒が、練習の成果と伝統芸能継承の意義を感じることができるよう、今後工夫が必要である。

【地域の方から】

毎年、小中合同運動会や江内祭りなどの地元の行事において、児童生徒が演舞する姿を見て大変元気をもらっている。地域の伝統芸能を、子供たちの手で守り継いでいることへ感謝すると共に、今後も大いに期待したい。